

校友会活動ビジョン

ビジョン

未来を生みだす、立命のきずな。
応援しよう、個のかがやきを。

行動指針

1. 未来を信じ挑戦し、自らのボーダーを超える。
2. 多様性を認め、楽しく相互に成長できるつながりをつくる。
3. 循環型支援の立命文化を創る。
4. グローバルシチズンとして、広く社会に貢献する。
5. 立命人としての誇りを持ち、大学の価値向上に寄与する。

りつめい No.280/2020年4月号

発行所/立命館大学校友会/年4回発行
発行人/村上健治
編集人/加藤美佐子
〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1
Tel.075(813)8216 Fax.075(813)8217
URL:<https://alumni.ritsumeijp>
E-mail:alumni@st.ritsumeijp

ご連絡先の変更はこちらから▶



りつめい

題字・末川 博名誉総長

立命館大学校友会報

| 巻頭特集 |

生涯、
輝き続ける



輝くひと

大垣精工株式会社 代表取締役会長

上田勝弘さん
(’61法)

技術も心もオープンに

「大学では法哲学を勉強したけど、これが“鉄学”に代わっただけだよ」。製品を生産するための金属の型である「金型」を扱う大垣精工株式会社の代表取締役会長、上田勝弘さんはそう話す。上田さんが金型の製造工程を初めて見たのは、大学卒業後に就職した金属加工会社でのこと。鉄で鉄が削られる様子が不思議でならなかった。同時に、ものづくりへの興味が湧いたという。当時の社長に頼み込み、職人気質の現場へ飛び込んだ。ゼロからのスタート。研修で学んだ技術を何冊ものノートにびっしりと書き留め続け、金型の知識を身につけた。

その後の人生は金型一筋。1968年に独立し、大垣精工株式会社を設立。それからの活躍の舞台は日本にとどまらない。1981年にソウルで開かれた金型の展示会への参加がきっかけとなり、韓国企業との交流が始まった。今では中国・インド・タイなどのアジアをはじめ、欧米にも市場を広げている。また、韓国からの研修生を受け入れるなど、金型技術者の人材育成にも注力し、金型業界をけん引してきた。

同社は、常にオープンスタンスをとる。技術の漏えいを避けるために工場見学を制限する企業があるなか、積極的に見学を受け入れている。技術も心の内もオープンにするからこそ、新しいビジネスにつながることもあるという。また、社員の海外研修も頻繁に行っている。「言葉や文化を学ぶことはもちろん、心の壁を取り払うことができこそ、本当の国際化が進んでいく」と上田さんは考えているからだ。

今年で81歳になった上田さん。「内面から湧き上がる好奇心と、周りの皆さんの協力のおかげで、ここまでやってこれることができました。まだまだ、私の興味はつきません。自我欲にとらわれず、一日一日を大切にしながら人生を楽しんでいきたいと思います」と笑顔で語った。

撮影：二村 海



大垣精工株式会社 代表取締役会長
うえだ かつひろ
上田勝弘さん(61法)

輝くひと
110

■ PROFILE

滋賀県出身。1961年に法学部卒業後、大垣市内の金属加工会社に入社。1968年に大垣精工株式会社を設立。以来、金型の製造や業界の人材育成に取り組む。2001年に一般社団法人日本金型工業会会長に就任し、2012年まで11年間務めた。2005年、韓国の「金型の日」の記念式典で韓国大統領表彰を受賞。2013年には日本の勲章の旭日中綬章を受章した。趣味は囲碁、歴史探訪、ゴルフ。

| 巻頭特集 |

生涯、 輝き続ける

人は老いる。その宿命から誰も逃れられない。
しかし、与えられた人生をどのように生きていくかは自ら選ぶことができる。
年を重ねても自分に限界を設けず、
ただひたむきに、信じた道を歩んでいるお二人に話を聞いた。

文：P3-5 高原珠美 撮影：P4-7 舟田佳代



立命館大学校友会報

りつめい APRIL 2020
No.280

03 巻頭特集 生涯、輝き続ける

02 輝くひと
大垣精工株式会社 代表取締役会長
上田勝弘さん

08 RITSUMEI INTERVIEW
イサハヤ電子株式会社 代表取締役会長兼社長
井寄 春生さん

12 立命館の研究者たち from RADIANT
経済学部 黒川 清登 教授
「高齢化問題、タイと日本の共通点は？」

Present

アンケートにご協力いただいた方に抽選でプレゼントをお贈りします！



14 校友会未来人財育成基金

16 3.11復興への願い／校友大会予告

17 校友会ネットワーク

行事報告

今後の行事予定

20 卒業後も大学を利用しよう！

21 立命館の生涯学習

22 「shiRUto」のご案内

24 学生の活躍

26 キャンパストピックス

28 Road to Tokyo2020

30 INFORMATION
編集室から

掲載内容は全て、2020年2月時点のものです。
デザイン・ディライト広告事務所

縄文布に魅せられて

東海学園女子短期大学 名誉教授 / 立命館大学環太平洋文明研究センター 客員協力研究員

おぜき きよこ
尾関 清子 さん

PROFILE

東海学園女子短期大学名誉教授。専攻は生活文化史。2017年、立命館大学から博士号（文学）が授与された。2015年からは立命館大学環太平洋文明研究センターの客員協力研究員として縄文布に関するシンポジウムや縄文布を編む体験教室などを実施し、研究成果を社会に還元する活動も行う。

『縄文の布』

文の布—日本列島布文化の起源と特質—（雄山閣、2012）には、縄文時代に織られていた日本最古の布「編布」^{あんざん}についての研究結果が352ページにわたってつづられている。調査件数は165遺跡、832点にも及ぶ。

「研究は謎解き。とても面白いのよ」。そう語るのは著者で東海学園女子短期大学名誉教授の尾関清子さん。尾関さんは、縄文時代の布文化（衣文化）の地域性やその起源を家政学の視点から掘り下げ、取り扱われることが少なかった縄文時代の布研究の基礎を築き、高度な技術的分析によってその成果を体系化。日本だけにとどまらず、世界の布研究に多大な影響を及ぼすものとして高く評価され、2017年、88歳で立命館大学から博士号（文学）が授与された。「大学の学歴を持たない私が博士号をもらえたことは、思いがけない幸運でした。こつこつと続けていた研究が認められて本当にうれしいです。でもせっかくなら、もう少し早くいただけたらよかったわ」と屈託なく笑う。

昭和の戦前・戦中・戦後という激動の時代を生きた尾関さん。自身の人生も波瀾万丈だった。愛知県で生まれ育ち、16歳で終戦を経験。高等女学校卒業後、手先が器用なことを生かそうと洋裁専門学校に入学。しかし、さまざまな人からの依頼により銀行や小学校、百貨店などで働くことを余儀なくされた。その後、両親の勧めで見合い結婚をしたが3カ月で離婚。「こうなったら好きなことをとことんやろう」と、東京の伯母の元に居候。手芸教室へ通い、さらに日本人形製作の技術を身につけ、3年後に帰郷。当時、名古屋市で目新しかった日本人形教室を開いた。作品展を

見に来た東海学園の関係者から翌年に開設される女子短期大学で学生たちに手芸を教えてほしいと懇願され、授業を受け持つことに。1964年に講師として着任、その後、生活文化史を専門とした助教授となり、1995年まで教壇に立った。

退任後も研究を続け、前述の書籍を2012年に発刊。渡辺公三氏（元・学校法人立命館副総長、故人）が研究成果を高く評価し、2017年、立命館大学で博士号の取得となった。「誰も手を付けていない分野の研究だったので、参考文献も少なく行き詰まったことも。その分、解明できたときの喜びは大きかった」と振り返る。考古学の教授に教えるを請いながら、全国各地に出向いては考古資料を克明に見つめ、読み解く日々。「『考古学を学んでいない人に資料は見せられない』と断られたこともあったけれど、どうしても知りたいからと食い下がって、他で見せてもらえるところを紹介してもらったこともあるの。学位をもらったことも、研究が続けられていることも、いろんな人に助けられた結果なのよ」。

縄文布の第一人者として名の知られた今でも研究に情熱を傾け、国内を飛び回る生活を送る。「この年になっても、お金や時間など労力を惜しまない私にあきれられる人もいますが、研究には命を懸けるだけの価値があると思っています」。

時代や人に翻弄されながらも好奇心と探究心を持ち続け、先人たちの生活を解明した尾関さん。忙しくてもできる限り自炊をして、口に入れるものに気を配る。その理由は「少しでも長く研究を続けたいから」。一日一日の生活を大切にしたいという想いが言葉からあふれていた。



死を見つめ、生きるを知る

高台寺 常任教師

 ごとう てんしょう
 後藤 典生 さん (72法)

京都市にある高台寺。豊臣秀吉の正室である北政所きたのまんどころ(ねね)ゆかりの寺として有名だが、現在では世界初とも言えるアンドロイド観音「マインダー」が安置されている寺院としても知られる。「最先端の技術と組んで仏教を伝えたい」という思いでマインダーを考案したのは高台寺常任教師の後藤典生さんだ。

マインダーは、プロジェクションマッピングに登場する聴衆との平易な言葉のやりとりで『摩訶般若波羅蜜多心経』(『般若心経』)を説き、悩み多き人々が「心の安らぎ(安心)」を得るための方法を示す。「2000年ぐらい前に仏像ができたといわれています。仏像のおかげで、仏教がものすごく分かりやすいものになり、アジア全体に広がっていききました」と、仏教における仏像の重要性を指摘する。仏像も時代とともに変化してよいのでは、と考えた後藤さんは大阪大学の協力のもと、自分で動き、目を合わせて話すアンドロイド観音を製作した。これまでの概念を覆す仏像に批判も相次いだ。が、実際にマインダーの法話を聞いた人からは「分かりやすかった」と好意的な感想も多い。

後藤さんには、4つの使命があるという。1つ目は生老病死をはじめとする、この世のさまざまな悩みを乗り越えるために、仏教の心を伝えること。2つ目は戦国時代という過酷な時代を生きた豊臣秀吉とねねの心・文化を伝えること。3つ目は難民救済やアイバンク、献血などの多くの人に役立つ奉仕活動。そして4つ目は京都の観光事業に尽力することだ。観光事業の一環として、平安建都1200年の1994年には、夜間ライトアップを決行した。当時は「寺を明るくしてどうすんのや」とかなりの非難を浴びたが、結果的にバブルが崩壊して観

光事業が落ち込んでいた京都に大きな経済効果をもたらし、今では多くの神社仏閣でライトアップのイベントが行われている。「生きている間は、怒られ、批判され、むちゃくちゃ言われても、実践して形にせな。語るだけでは何にも残らんからね」と話す。

後藤さんの熱意の元は、立命館中学・高校の担任が言った「一度しかない人生やから、精いっぱい生きてやっていけ」という言葉にあった。当時から今まで長く付き合っている校友は多く、「やる気ある仲間が多い」と後藤さん。立命館大学に進んだきっかけは、当時学園の総長を務めていた末川博先生に魅力を感じたからだ。校風も、どんな発言も全部認めてくれる自由さが自分にとってもよく合っていた。「ものすごく愛しているし、育ててもらったという気持ちもある」と、今でも立命館を思う気持ちは強い。

VISIT JAPAN大使も務める後藤さんは70歳を超えた今でも、韓国や台湾など海外に向向くといった活動を精力的に行っている。これからは新たに、障がいがある子どもたちの支援をしたいと決意を話す。それは以前に同志社大学の神学部の牧師と約束をしたが、直後に観光事業へ全力を注ぐこととなり、いまだその約束を果たせていないからだ。「やりたいことはたくさんあるが、時間は有限。ある程度焦点を絞って、次の世代につないでいかないと」と心情を吐露する。そして「死」というものをゆっくり見つめ直したいとも。「その瞬間、その瞬間を精いっぱい生きてきたら、あっという間に70になっていた。死への恐怖は若い時の修行で乗り越えたと思うけれど、この年になって改めて『死』というものを、きちんと見つめたいな」と後藤さんは語った。



アンドロイド観音「マインダー」

撮影場所：
高台寺礼拝聴聞室「利生堂」

PROFILE

高台寺常任教師。立命館大学京都校友会・法学部同窓会・立命館清和会 副会長。出家したのは13歳で、1972年に法学部を卒業した後、臨濟宗大本山建仁寺で僧侶になる。現在、観光庁のVISIT JAPAN大使、京都市の京都観光おもてなし大使なども務め、日本文化や和のおもてなしについて発信している。

最後まで夢を 追いつける人生を

イサハヤ電子株式会社 代表取締役会長兼社長

井寄 春生さん（'60 経済）

長崎県諫早市に本社を構えるイサハヤ電子株式会社は
1973年に創業のアナログ半導体メーカーです。
国内だけでなく、中国やアメリカ、シンガポール、フィリピンなど
グローバルに事業を展開しています。
その創業者である井寄春生さんに、
これまでの歩みと成功の根底となった志について伺いました。

撮影：草野 優介

私 は長崎県長崎市で生まれ育ちました。小学校
4年生の頃に終戦し、当時は恵まれた生活で
はありませんでした。そこで「豊かになりたい。

そのためには経済を知ることが大事だろう」と考えたのが、
経済学部を志望したきっかけです。高校卒業してから親戚
がいた京都に出て、1年ほど九条の鉄工所に勤めながら進
学を目指しました。当時の立命館は末川博先生が総長をさ
れており、戦後の学園改革に力を注ぐ中で向学心のあるハ
ングリーな学生を歓迎していました。京都には学生を大事
にする風土もあって、立命館大学への進学を決意しました。

実家も裕福な暮らしではなかったので、留年をするとそ
れこそ親不孝。ですから、わずかな時間の中で私なりに勉
強してきました。当時は下宿の時代で、費用の節約を目的
に、住む場所を8カ所くらい転々としながら、4年で卒業し
ました。自分でも真面目な学生だったと思っています。大学
時代は勉強以外にもアルバイトに精を出しました。昼間は
鉄工所や染物店で働き、夜は古い倉庫を借りて小・中学

生を対象にした塾を開きました。その他にも映画のエキス
トラや料亭の下足番、書籍売場での店員など、ありとあらゆる
アルバイトをした記憶があります。

家族の幸せのために 起業を決意

大学を出てからは、理研光学工業株式会社（現・株式
会社リコー）に6年ほど勤めました。勤務先は東京の銀座
にある営業所。そこでコピー機を担いで訪問販売する日々
でした。就職してからすぐ結婚して、28歳の時に子どもが
できました。家族には私と同じようなハングリーな思いをさ
せたくないという気持ちが強くありました。「今のサラリーマ
ンの生活で、本当に娘を幸せにできるのだろうか」。そんな
不安を払拭するために一念発起して起業。これがイサハヤ
電子株式会社の始まりです。1973年、長崎県諫早市に諫
早電子工業株式会社を設立登記をしました。（1991年、イ



サハヤ電子株式会社に商号変更)当時の諫早市は過疎化に苦慮しており、長崎県誘致企業条例の適用第1号に選ばれました。工場建設用地周辺は道も舗装されていない山の中でしたが、今ではさまざまな業種の工場があり、産業の集積地として発展しています。

グローバルな視点は 動物的感觉

私たちの会社は半導体を扱っています。半導体は数ミリという小さなチップの中に膨大なメモリーを記録できる製品です。しかし当時はあまり知られておらず、私はその点にビジネスとしての面白さを見出しました。「このチップに自分の夢を託そう」という思いで始め、半世紀やり続けています。当社は国内に3拠点あり、長崎の本社は管理部門と開発関係が軸で、創業の地・諫早市貝津町に資材、品質部門、大阪にある営業本部が営業拠点になっています。生産はすべて海外で、中国とフィリピンにある工場が生産の中核です。海外販売の拠点は香港とシンガポール、アメリカのサンディエゴの3カ所で、これらはすべて独立法人



です。

海外進出を決意したのは、50代の時にがんを患ったのがきっかけ。がんの摘出は成功しましたが、その後、医師から「今後の余命については、ご自身の気力次第です」と告げられました。私は「それならば残された人生、後悔ないように挑戦しよう。ここまで来たらやるしかない」と思いました。病に伏せ、限りある人生をどのように生きたいか自問したことが、海外進出の大きな引き金になったのです。

海外に製造拠点を付けたのは1995年のこと。当時の日本では海外進出がまだ盛んではなく、おそらく長崎県の企業で海外に工場をつくったのは当社が一番早かったのではないのでしょうか。その時点で、これからの日本が少子化・高学歴社会になり、グローバルな時代になっていくことを察するのは、それほど難しいことはありませんでした。海外展開を考えず日本国内のマーケットだけを対象にしてしまうと、企業の成長はありません。自動車もそうですし、日本で製品を生産している企業は、どんどん海外に工場シフトしています。消費地により近いところに生産拠点を設けて物流コストを削減するためです。

現に今の日本経済を見てみると、少子化が急速に進んでおり、人を採用するのが大変だ、労働力不足だとよく耳にします。しかし海外ではフィリピンにしても、中国にしても、労働力に対して困るということはありません。海外進出して良かった、自分の判断は正しかったと思います。このようなグローバル視点というのは、ある意味で動物的感觉だと考えています。よく「そういうことができるのは語学力があるからだ」とか「そういう視野を持っているか

らだ」とか言われますが、それはできないことに対する口実に過ぎません。志がきちんと伝われば世界のどこでも通用するものです。

ネバーギブアップの精神で さらなる発展を目指す

今後の展望は、フィリピンにおける第3工場を完成させること、そしてオーストリアのウィーンに販売会社を出すことです。ウィーンは過去に事業を行っていましたが、撤退した場所なので、何としてでも雪辱を果たしたいという強い気持ちがあります。事業というものは、自分のやったことが成功すると倍の喜びがあります。自分が考えて行動に移したのこそ、リターンが早いのです。その喜びを永遠に追いかけるつもりで事業に励んでいます。

当社の屋外に創業碑がありますが、そこには「ネバーギブアップの精神」と書かれています。人は誰も夢を持っているものですが、ややもすると自分の夢を伏せて現実に生きようと逃避をするところがあります。それでは自分の夢をつかむことはできません。自分が生きている最後まで夢を追いかければ、必ず自分の手でつかめるものだと思っています。「為せば成る、為さねば成らぬ」の精神で行動することこそ事業についても人間としても成功する手段だと思います。

「一生懸命やっている」と言葉ではよく言われますが、一生懸命というのもそれぞれ人によって定義が違うので、私はそれよりも「結果が出る努力」をするべきだと考えています。人間は作業をすると努力したと思うものです。長崎の若手経営者から「社長、こういうことをやっているけれど、うまくいかないんです」と相談されることがありますが、一つの策だけで成功するなんてとんでもない。AがダメならB、BがダメならCと、取るべき対策は無尽蔵にあるわけです。このような努力をしたからこそ、挫折を突破するだけのエネルギーが出てくるのだと考えます。そしてそれを楽しむこと。私は今まで苦勞してきたのではなくてエンジョイしてきたのではないかと考えています。ですから、あまり仕事に対して苦痛だと思ったことはありません。本当の努力とはそんなものではないでしょうか。

人には誰も何かしらの才能があります。しかし、自分の



理研光学工業株式会社に勤めていた頃の井寄さん(右端)

才能を理解する前に一生を終えてしまう方が圧倒的に多いのかもしれない。才能は自分で努力して磨いていかないと開花しないからです。誰もが与えられた才能を無駄にしないためにも、いろいろな経験を積んで、いち早く自分を知ることが重要だと考えています。私自身、大学時代に勉学やアルバイトに励んだことが血肉になり、今の基礎につながったと思っています。

PROFILE

イサハヤ電子株式会社
代表取締役会長兼社長
いざきはるお
井寄 春生さん

1960年経済学部卒業。理研光学工業株式会社に勤務した後、1973年に諫早電子工業株式会社を創業。以来アナログ半導体製品の製造に取り組む。2013年に同社が第5回ものづくり日本大賞九州経済産業局長賞を受賞。2017年に中小企業庁「はばたく中小企業・小規模事業者300社」に選定。2018年に自身が旭日単光章を受章した。



先日、長崎県校友会の総会に参加しました。まだ現役ですので、なかなか時間がとれませんが母校のために少しでもお役に立てるようにお力になれたらと思っています。

高齢化問題、 タイと日本の共通点は？

タイ

[タイ東北部・コラート高原]



フィールド調査で出会ったタイ東北部コンケンの老人たち。自分たちが作り出す特産品に強い誇りを持ち、生き生きと語りかけてくる姿に学生たちも感銘を受けた様子。

日本

[滋賀県湖北]



黒川がゼミ生とともに継続して交流を続けている滋賀県高島市上開田での一場面(写真上・中段)。下段は住民主導で地域振興に成功した長浜市のピフォア/アフター。

生き生きとやりがいを持って働き続ける。
タイの高齢者に見る理想の人生。

黒川 清登 経済学部 教授

研究テーマ：開発途上国における地域経済の振興研究。経済開発に伴う負の側面として、都市と農村の経済格差があり、世界中でこの格差はますます広がっている。この経済格差の影響を社会経済調査を行うことによって検証し、実効性の高い経済政策を提言していく研究を行っている。
専門分野：地域経済振興、中小企業振興、環境リスク制御・評価、環境政策・環境社会システム、自然災害科学・防災学、経済政策、社会・開発農学



タイの首都バンコクからバスに揺られること約450km。東北部の町コンケン(コケン)を黒川清登と立命館大学の学生がフィールド調査に訪れたのは2016年8月のことだった。3年目となる今回もコンケン大学とタイ国立行政研究院(NIDA)の学生を交えた日タイの学生が共同で各村を訪れ、高齢者グループによる地域活動の課題を調査した。

「高齢化は日本をはじめ欧米を中心とした先進国の抱える課題だと考えられており、開発途上国でも農村部では高齢化が深刻な問題になりつつあることはあまり知られていません」。

このタイとの協力は歴史が長く、NIDAの協力を得て1998年から地域経済活性化をテーマにフィールド調査を続けているが、近年タイの地方部では、若年層の都市部への流出に加え、高齢化の影響を見逃すことができなくなってきたという。黒川がフィールドとするタイの東北部でも若者が仕事を求めてバンコクなどの都会へ出ていき、高齢化と人口減少が急速に進んでいるという。こうした高齢化の進展の中でこれから地域経済をいかに活性化していくべきか、黒川はその方策を探っている。

とりわけ3年にわたって続けているのがタイ東北部と日本の滋賀県の湖北地方(高島市、長浜市)を比較するという独創的な研究だ。

「調べてみると両地域には共通点が非常に多いことがわかってきたのです」と黒川は比較対象を選んだ理由を説明する。周囲を山に囲まれた平地で水が豊富といった地理的条件が似ていることに加え、観光推進や地域活性化の取り組み、特産品などにも共通点が多い。何より黒川が興味を引かれたのは、両地域とも深刻

かつ類似する高齢化にまつわる問題を抱えている一方で、その解決を目指すアプローチが異なることだ。「両地域の比較から日本とタイのそれぞれに対し、高齢社会の地域経済活性化を実現するヒントを提示できるのではないか」と期待を寄せる。

まずタイで黒川が重点的に調査しているのが"OTOP (One Tambon One Product)" と呼ばれる一村一品活動である。タイでは政府の後押しを得ながら地域活性化の手段の一つとして"OTOP" が長く行われているが、近年活動主体であるメンバーの高齢化に伴って高齢者への雇用機会の提供という意味を色濃く帯びようになってきたという。

タイ [タイ東北部・コラート高原]		日本 [滋賀県湖北]
なし	年金制度	国民年金、厚生年金など
男性71歳、女性79歳(2012年)	平均寿命	男性80.79歳、女性87.05歳(2015年)
OTOP(内務省) 中小企業振興(工業省)	地域活性化	地域おこし協力隊(総務省) 道の駅(国土交通省) 中心市街地活性化(経済産業省、国土交通省)
エコツーリズム(農家への宿泊と農業体験)、 バックパッカー・ツーリズムへの対応	観光推進	かつては民宿街の整備、 現在は、空き家対策も兼ねた 移住定住の促進、民泊の可能性の検討中。
植林の推進	森林活用	自伐型林業への転換
内陸の湖沼での魚から製造する 魚肉ソーセージ	特産/食料	ホンモロコなど びわ湖固有種からの佃煮など
マットミー(シルク、綿)製品 東北タイ・イサン地方で何世紀にもわたって 受け継がれている織物。いわゆるタイシルク。	特産/繊維	たかしま紬、浜ちりめん 滋賀県長浜市を中心に生産される高級絹織物。 丹後ちりめんと共にちりめんの2大産地の一つ。

日本のような年金制度のないタイでは高齢者といえども生活の糧を自ら得る必要がある。「マットミー」と呼ばれる絹の織物、花飾りなど伝統的な工芸製品を高齢者が手作りし、共同で販売し利益を得ている。「各家に織機を置くことで、高齢者でも好きな時に好きな時間だけ働けるようにするなど雇用の仕組みには見習うべきところが少なくありません」と黒川。また過疎化の進む農村で農家の空部屋を活用して農業体験型のバックパッカー向けのエコツーリズムの世界的な流れに対応しているところも日本に先んじている。加えてこうした取り組みに国のみならず大

学、地方の研究所などの高等教育研究機関が積極的に関与して支えている点にも学ぶべきところがあると黒川は言う。「何より学生と一緒に各村のOTOPグループを訪ねて印象に残るのは、高齢者が自分の仕事に自信とやりがいを持って生き生きと働いているところです」と黒川は続けた。さらにOTOPは単に仕事を提供するだけでなく、レクリエーションを楽しんだり、社会貢献したり、相互ケアで健康も増進する仕組みとしても機能している。年金制度のないタイにおいてOTOPの経済的な側面の重要性は言うまでもないが、それ以上に「生きがいを持って健康に人生を全うする」上でのヒントがそこにはあると黒川は見る。

方日本の滋賀県では地域経済活性化の一例として長浜市の中心市街地活性化の成功例に注目している。長浜市にかつて存在した「黒壁銀行」の伝統的な建築物を核に、閑古鳥が鳴いていた中心市街地を年間200万人が訪れる観光地へと発展させた。行政からの補助に頼らず、住民主体で地域振興に成功した例は全国で

注目されているばかりでなく、黒川が報告したタイでも大きな関心を集めた。高齢化によって労働人口が減少し年金制度の破たんが懸念されている現代日本では、もはや「『悠々自適な老後』という理想を変えざるを得なくなっている」と指摘する黒川は最後にこう決意を述べた。「これからは高齢者であっても長く働き続けられる。それが社会貢献でもあり生きがいにもなるという新しい高齢者の姿を模索していく必要があります。国際的な研究を通じてわが国の高齢社会の在り方そのものに新たな視点を提示していきたい」。

立命館大学研究活動報『RADIANT』(ISSUE4 少子高齢化、pp20-21,2016.11)より転載 ▶ <http://www.ritsumei.ac.jp/research/approach/vision/activities/>
RADIANT(ラディアント)は、立命館大学の多様な研究活動を紹介する研究活動報として2015年11月に創刊号「アジア」を発行し、今年で6年目を迎えます。RADIANTは、「光を放つ、光り輝く」という意味を持つ形容詞です。今後、立命館大学の研究成果が光輝く未来を生みだす一歩に、また、これからの世界を照らす一助になるという意味が込められています。今後も一つのテーマを切り口に、立命館大学で展開されている研究を幅広く紹介していく予定です。



「校友会未来人財育成基金」から生まれた「+R校友会未来人財育成奨学金」が、学生の学びのフィールドを広げています。

「校友会未来人財育成基金」は、「+R校友会未来人財育成奨学金」として学生の学びを支援しています。現在、グローバルな学びへの踏み出しを支援する「海外留学支援」と、自らの学びを地域社会貢献などに飛躍させることを支援する「成長支援」があります。今回は、支援を受けた学生を紹介します。 ※掲載の所属・回生などは2020年2月時点のもの

+R校友会未来人財育成奨学金 成長支援

“運動をより楽しく、継続できるものに”

ホルモンの分泌などの身体的反応に注目

3回生の時、祖母がくも膜下出血で倒れました。血圧や脂質などさまざまな因子によって引き起こされたと思いますが、運動嫌いな祖母の場合、運動不足も一つの遠因ではなかったかと考えています。

先行研究から、運動の継続には、運動の楽しさ・有能感・志向性といった心理的な働きが重要であることがわかっていますが、私は心理的反応だけでなく、運動による身体的反応として分泌される幸せホルモンも一つのポイントではないかと考えています。

運動実験の実施

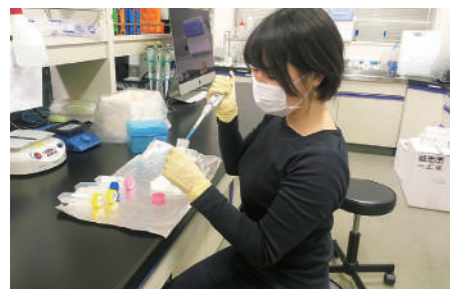
今回、同一の運動を異なる条件下で行った場合、心理的・身体的反応がどのように表れるかを分析する運動実験を行いました。運動にさまざまな条件を加えて実施したところ、お香をたきながらの運動は身体的疲労を軽減し、テレビ番組（バラエティ）を視聴しながらの運動は心理的疲労を軽減するなど、興味深い結果を得ることができました。逆に、ゲームをしながらの運動は一見楽しそうですが、かえって疲労感が高くなりました。ゲームと運動の両方を行うマルチタスクの状況は、脳への負荷が高いのかもしれませんが、今後、これらの実験結果をもとに、新しい運動プログラムができる可能性があります。

今後について

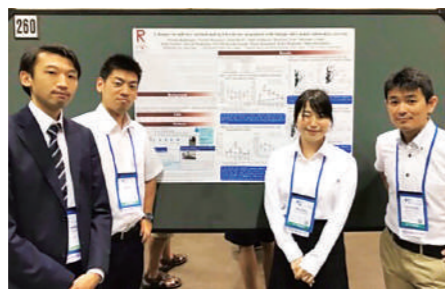
今回、奨学金に採用いただき、実験資材の調達や学会参加のための渡航費に充てることができました。みなさまのご支援に感謝申し上げます。大学院修了後は、データ解析を専門とするコンサルタントとして、スポーツ界の発展に貢献していきたいと思っています。



橋爪 夏香さん（院スポ健2）



ホルモンの解析



学会発表



運動実験



～校友から、未来を担う後輩へ～ 後輩の成長を応援するチアカードが誕生

2019年度から各校友会イベントにおいて、校友会未来人財育成基金の趣旨に賛同した方がその場で寄付（ひと口1,000円）を行えるよう、寄付の募集袋と後輩へのメッセージカード（チアカード）を試験的に配布しています。

+R校友会未来人財育成奨学金を受給した学生の成果報告とあわせて実施することで「後輩の成長の一助になれば」と、これまで寄付の経験がなかった方をはじめ、多くの校友、関係者から協力・賛同を得ています。

「立命館の未来は私たちが創る。」との想いのもと、チアカードの取り組みを通じて全国各地で母校・後輩支援の輪が広がっています。



校友会未来人財育成基金の実績 (2019年12月31日時点) **4,631**の個人・団体・法人から **246,678,144円**

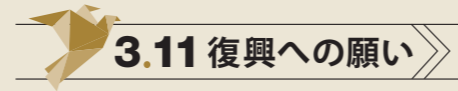
インターネットから継続寄付をいただいている皆さまへ

クレジットカードの有効期限が近づいていませんか？
クレジットカードの有効期限が切れますと、自動での引き落としができなくなります。有効期限が近づいている場合、あるいは切れてしまっている場合は、更新のお手続きをお願いします。

【お手続きの方法】
お申し込みの際にお送りしました申込完了メールの「継続寄付の内容変更・解約について」の項目に記載されているURLにアクセスし、同じくお申し込みの際に別途メールでお送りしたパスワードでログインいただき、お手続きください。
※申込完了メール、パスワードがご不明な場合は、再度メールをお送りしますので、寄付事務局までご連絡ください。

募集要項	申込方法	
<p>■ 寄付の金額</p> <p>(1) 個人・団体（校友会などの任意団体）の場合 ひと口1,000円からご支援いただけます（一括寄付と継続寄付【毎月・年2回・毎年】のどちらも可能です）。</p> <p>(2) 法人の場合 ひと口の金額は特に定めておりません。</p> <p>■ 募集期間</p> <p>期間に定めはありません。</p> <p>■ 活用プラン</p> <p>海外留学支援、成長支援、課外活動支援、研究支援、施設整備支援。</p> <p>■ 税制上の優遇措置について</p> <p>本寄付は立命館大学に対する寄付金であり、税制上の優遇措置を受けることができます。</p>	<p>① WEBで申し込む</p> <p>立命館大学校友会のホームページよりお申し込みください。簡単な手続きで完了いたします。クレジットカードにてご寄付いただけます。</p> <p>スマートフォンからのアクセスはこちら！ https://alumni.ritsumeiji.jp/gift/</p>	<p>② 書面で申し込む</p> <p>校友会事務局に資料をご請求ください。銀行振込・口座振替・現金にてご寄付いただけます。</p>
<p>お問い合わせ先（受付時間 土日祝を除く 9:30～17:00）</p>		
校友会未来人財育成基金に関しては	立命館大学校友会事務局	寄付の受け入れ、税制上の優遇措置に関しては
	075-813-8216	立命館 総務部 寄付事務局
		075-813-8110

防災食「さんまの缶詰」再販決定!



「オール立命館校友大会2018 in 仙台」の開催に合わせて開発した、「KINOBUYA PROJECT」による京都の料亭仕込みの防災食「さんまの缶詰」。大好評につき再生産、再販売を開始しました! 口に入れるとほっと心安らぐ、おいしく栄養たっぷりの缶詰(実山椒・梅)をぜひご賞味ください。

KINOBUYA PROJECT

防災食の開発にあたり、立命館大学校友会のネットワークを活かし、京都の料亭「木乃婦」と宮城の水産加工品メーカー「木の屋石巻水産」、学校法人立命館、立命館大学校友会による共同開発プロジェクト「KINOBUYA PROJECT」を2018年に発足しました。



実山椒・梅 各400円(税込)

「KINOBUYA PROJECT さんまの缶詰」(実山椒・梅)は、株式会社木の屋石巻水産WEBサイト、またはお電話にてご注文可能です。

木の屋石巻水産
WEBサイト

TEL ☎ 0120-05-1237

(受付時間 9:00~16:00 ※土日祝除く)



限定品につき、数に限りがございます。完売となった場合はご了承ください。収益の一部は、宮城県の「子どものたより場応援プロジェクト」に寄付いたします。



〈レシピ開発・監修〉木乃婦 高橋 拓児氏(91法、右)
〈商品開発・製造・販売〉木の屋石巻水産 木村 長努氏(77経済、左)

校友大会予告

2020.10.18

大阪いばらきキャンパスで 校友大会を開催

2020年度の校友大会は、10月18日(日)に大阪いばらきキャンパスで開催します。詳細は、5月下旬以降に校友会ホームページでご案内します。
※2020年度は、参加者が一堂に会する懇親パーティーを開催しない予定です。



行事報告

11月下旬~2月上旬に行われた各団体の行事の一部を紹介しています。

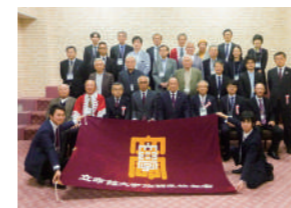
*詳しくは校友会ホームページをご覧ください
<https://alumni.ritsumeiji.jp>

都道府県校友会

11/23 73名
北九州校友会 総会



11/23 33名
佐賀県校友会 総会



11/23 37名
宮崎県校友会 総会



11/24 67名
広島県東部校友会 総会



11/30 143名
石川県校友会 総会



12/7 26名
栃木県校友会 総会



1/25 64名
北海道校友会 総会



2/8 203名
東京校友会 総会



TOPICS 立命館宇治高校 2年生対象キャリア企画「授業+R2019」を開催

12月14・18日、立命館宇治高校で2年生を対象としたキャリア企画「授業+R2019」が行われました。これは立命館大学の若手校友および大学生が講師となり、自身の学生時代や社会人としての経験をもとに授業を行っているものです。

「授業+R」は2009年度からスタート。今回で11回目を迎えました。若手校友と大学生の授業を通じて、高校生たちにとって学部選択や大学進学、またその先の大学生活、将来の働き方について、具体的に考える貴重な機会となりました。



TOPICS 富士山女子駅伝 静岡県校友会をはじめとする校友らが現地で応援

12月30日、全日本大学女子選抜駅伝競走(富士山女子駅伝)が静岡県で開催され、女子陸上競技部が出場しました。富士山本宮浅間大社前をスタートし、富士総合運動公園陸上競技場までの7区間43.4kmのコース。今回は4位フィニッシュとなりました。沿道では、静岡県校友会をはじめとする全国から集まった校友や、静岡県を中心とした父母、大学関係者などがのぼりを立て、手旗を振って応援しました。





地域校友会

11/30 31名
下関校友会 総会



11/30 40名
奈良県校友会
西和立命会 設立総会



12/8 19名
兵庫県校友会淡路支部
総会



2/1 35名
姫路立命会 総会



2/8 41名
校友遠州会
新春パーティー



職域校友会

11/28 22名
尼崎市役所比叡会 総会



12/1 11名
立命館公認会計士
校友会 総会



12/7 33名
みずほFG立命館大学
OBOG会 (アショカ会)



12/10 10名
グローリーえんじ会



12/14 15名
北朋会 総会



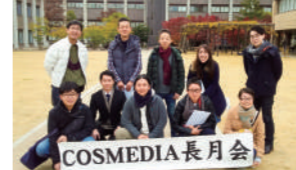
学科・ゼミ校友会

2/1 39名
立命館理工系同窓会
関東交流会 総会



サークルOB・OG会

12/7 10名
COSMEDIA 長月会



1/26 23名
理工ESS OB会 総会



その他の校友会グループ

11/23 16名
衣笠寮・寮友会



11/30 21名
双ヶ岡寮寮友会 総会



1/18 50名
中華校友会 総会



TOPICS 経済学部就職活動応援企画「メントレ」を開催

経済学部では、経済学部同窓会の後援を受け、今回で7回目となる就職活動応援企画「メントレ」を1月11・12日に開催。就職活動を控えた3年生192名を対象に、経済学部の校友128名が2日にわたって、模擬面接やエントリーシートの作成指導、マナー講座などを行いました。終了後のアンケートでは、今後の就職活動に向けて自信がついたとの声や、参加した校友への感謝の言葉が多く、充実した2日間になったことが伝わってきました。



TOPICS 第3回立命館大学奈良県ファミリー会が開催

2月16日、奈良市内にて、第3回立命館大学奈良県ファミリー会が開催され、校友・父母・学生の約120名が一堂に会しました。第1部の就職応援セミナーでは、奈良県在勤の若手校友による就活体験談、南都銀行の元人事担当者から見た就活チェックポイントの話などがありました。個別相談会後の奈良県校友会・父母教育後援会・現役学生合同開催の立春会(懇親会)では校友・父母・学生の垣根を越え、活発な情報交換が行われました。



今後の行事予定

2020年4月～7月に
予定されている総会等です(判明分)

*詳しくは校友会ホームページをご覧ください
<https://alumni.ritsumei.jp>

校友会・グループ	日程	会場	問い合わせ先	
愛知県校友会東三河会 総会	4/18(土)	豊橋パークホテル	青木 清美	090-8150-8389
立命寄席	4/18(土)	天満天神繁昌亭	校友会事務局	075-813-8216
南都銀行立命会 総会	5/15(金)	シェラトン都ホテル大阪	岡野 和弘	0744-22-1614
奈良県北部校友会 総会	5/17(日)	ホテル日航奈良	寺田 惇	090-5971-9752
ウリ同窓会 総会	6/6(土)	東華菜館	白 吉雲	075-321-3355
東北道校友会 総会	6/13(土)	ホテル日航ノースランド帯広	大久保 良信	090-9510-7928
山梨県校友会 総会	6/20(土)	アーバンヴィラ古名屋ホテル	久保田 忠行	055-227-5136
三重県校友会 総会	6/20(土)	プラザ洞津	田嶋 等	059-255-2203
山形県校友会 総会	6/27(土)	千蔵館	角田 祐喜男	0237-86-1357
滋賀県校友会 総会	6/27(土)	びわ湖大津プリンスホテル	坂田 耕治	077-521-2379
和歌山県校友会 総会	6/28(日)	ホテルグランヴィア和歌山	和田 好史	073-432-7039
岩手県校友会 総会	7/4(土)	ホテルニューカーリーナ	酒井 博忠	019-654-3893
立命電友会 総会	7/4(土)	立命館大学びわこ・くさつキャンパス	理工学部電子システム系事務室	077-561-2662
法学部同窓会 創立20周年記念総会	7/5(日)	ホテルグランヴィア京都	法学部事務室	075-465-8175
群馬県校友会 総会	7/11(土)	伊勢崎プリオパレス	岩崎 明	090-1857-6540
宮城県校友会 総会	7/18(土)	ホテル法華クラブ仙台	柏原 晋	022-286-9928
神奈川県校友会 総会	7/18(土)	新横浜プリンスホテル	山田 和久	090-5308-8144
岐阜県校友会 総会	7/18(土)	ホテルグランヴェール岐山	吉村 栄里	090-5452-2483
奈良県校友会 総会	7/18(土)	奈良ロイヤルホテル	門脇 由幸	0744-43-1918
徳島県校友会 総会	7/18(土)	阿波観光ホテル	小林 克仁	088-656-1023
香川県校友会 総会	7/25(土)	ホテルパールガーデン	黒川 宏	090-1329-7579
高知県校友会 総会	7/25(土)	得月楼	千蒲 悦嗣	090-1322-5381

卒業後も利用できるサービスがあります。 卒業後も大学を利用しよう！

校友サロンのご利用

立命館大学の各キャンパスに「校友サロン」を設けています。校友のお仲間同士やご家族で母校へお越しの際の待ち合わせなど、くつろぎの場としてぜひご利用ください。いずれのキャンパスも事前のお申し込みは不要です。お気軽にお越しください。※ただし、時間外の対応はいたしかねますのでご了承ください。詳細は校友会ホームページ「活用する」の「『校友サロン』のご利用」をご覧ください。

▶ <https://alumni.ritsumeiji.jp/use/use/>

校友サロン

- 衣笠キャンパス 国際平和ミュージアムロビー (1階・2階)
- びわこ・くさつキャンパス (BKC) コアステーション3階ラウンジ
- 大阪いばらきキャンパス (OIC) B棟1階ラウンジ
- 朱雀キャンパス 中川会館6階校友ロビー

図書館のご利用

衣笠の平井嘉一郎記念図書館、BKCのメディアセンター、メディアライブラリー、OICライブラリー、朱雀リサーチライブラリーをご利用いただけます。※ご利用には申請が必要です。

窓口

- ▶ <http://www.ritsumeiji.ac.jp/library/koyu/>
- 平井嘉一郎記念図書館 (衣笠) TEL.075-465-8217
- メディアセンター (BKC) TEL.077-561-2634
- メディアライブラリー (BKC) TEL.077-561-3943
- OICライブラリー TEL.072-665-2520
- 朱雀リサーチライブラリー TEL.075-813-8257

各種証明書の申し込み

申し込み方法

各キャンパスの学びステーション、または独立研究科事務室に郵送でお申し込みいただくか、直接お越しください。詳細は校友会ホームページ「各種手続き」の「証明書申込案内」をご覧ください。

▶ <https://alumni.ritsumeiji.jp/procedure/info/>

ご不明な点がございましたら、下記窓口までお問い合わせください。

窓口

- 衣笠キャンパス
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
衣笠学びステーション 証明書発行係
TEL.075-465-7877
- びわこ・くさつキャンパス
〒525-8577 草津市野路東1-1-1
BKC学びステーション 証明書発行係
TEL.077-561-4972
- 大阪いばらきキャンパス
〒567-8570 茨木市岩倉町2-150
OIC学びステーション 証明書発行係
TEL.072-665-2050
- 朱雀キャンパス
〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1
朱雀独立研究科事務室
(法務研究科・公務研究科・教職研究科)
TEL.075-813-8270

都道府県・グループ等校友会のご案内

立命館大学校友会へようこそ！立命館大学校友会は立命館大学・大学院の卒業生や教職員で構成された、会員数約37万人の組織です。校友会報「りつめい」では、各分野で活躍する校友の紹介や母校の近況をお届けします。会報を通じて、新しいフィールドに挑戦される皆さんとつながり、ともに活動できることを願っています。また、国内外を問わず、社会の各分野で活躍するさまざまな校友が、都道府県、地域、職域、学部学科、サークルなどを基盤とした校友グループを組織し、多様な活動を展開しています。詳しくは、校友会ホームページ「集う/参加する」の「都道府県・グループ校友会」をご覧ください。

▶ <https://alumni.ritsumeiji.jp/join/branch/>

立命館大学校友会の
SNS公式
アカウントは
こちら



Rをあなたの学び場に。立命館で再び学びませんか。立命館の生涯学習

立命館アカデミックセンターとは？

立命館アカデミックセンター (academic center of RITSUMEIKAN : 略称 ACR) は、年齢・場所を問わずに立命館の学びを体験できる場として2015年に開設されたセンターです。現在は、大阪・東京を中心とした各立命館の拠点での対面型の講座とWEB講座を開講しています。2020年4月開講の講座は、ACRホームページをご覧ください。



ACRホームページ



おとなの学び舎講師
文学部 本郷真紹教授



HACCOP 責任者養成研修
今城敏講師



漢字教育士WEB講座
久保裕之講師

受講者の声

- 大学院を卒業し非常勤講師をしていた頃、学生たちが「先生たちはみな、木津川先生の講義を聴きに行くべきだ。すごく上手いし、面白い」と言っていました。あれから30年以上経って、やっと木津川先生の講義を聴くことができ、「納得」です。
- 本郷真紹先生の講座はいつも面白く、目から鱗の話ばかりです。

「おとなの学び舎」(大阪梅田キャンパスにて開講中)の受講者アンケートから一部抜粋

- 総合心理学部 教授 仲真紀子先生の講義は、子どもの記憶や話すことの変化など、事例に基づいてよく理解できました。
- 国際関係学部 客員教授 藪中三十三先生の講義は、グローバルな視点からの国際情勢がよく理解でき、外務事務次官の経験を踏まえた講義を重く受け止めました。

期間限定公開 | 無料でどこでも手軽に学べる | 立命館大学オンライン公開講座 (MOOC)



SDGs 表現論

開講中!

開講期間: 5月8日 (金) まで

- 第1週 プラグマティズム: 「まずやってみる」時代へ
- 第2週 SDGsの探求: 想定外な社会の歩き方
- 第3週 SDGs時代における「プロジェクト論」の意義
- 第4週 プロジェクトを「ライフワーク」にする



受講はこちら



現代に生きる子どもの心理学

開講中!

開講期間: 5月31日 (日) まで

- 第1週 乳幼児の社会性発達と親子関係
- 第2週 ペアレント・トレーニング入門-ACTによる育児支援-
- 第3週 発達障害のある子どもとその支援
- 第4週 Developmental Cybernetics: ヒト以外のエージェントを通して探る赤ちゃんの心



受講はこちら



事例から学ぶ デジタル・トランスフォーメーション

受講受付中!

開講期間: 3月31日 (火) ~ 7月31日 (金)

- 第1週 デジタル技術とデジタル・トランスフォーメーション
- 第2週 事例から学ぶクラウド
- 第3週 事例から学ぶIoT, AI
- 第4週 事例から学ぶアジャイル開発



受講はこちら

受講の概要

インターネットに接続できるパソコンやスマートフォンなどを利用して、無料で視聴、学ぶことができるオンライン公開講座です。1回の視聴は約10分で無理なく学習を継続することができます。修了要件を満たすと、修了証が発行されます。

受講方法

立命館大学ホームページから専用サイトにアクセスし、受講登録を行ってください。

立命館 MOOC 検索

●講座の受講には、講座配信プラットフォーム「gacco (ガッコ)」の会員登録 (無料) が必要です。

(お問い合わせ) 立命館大学 社会連携課 ☎075-813-8247

共働きの2人が目指すべき 本当の「ワークライフバランス」とは

大学発オウンドメディア『shiRUto』
立命館大学のさまざまな「知」を通して
社会に新しい価値を

shiRUto

知ると、ツナガル、ウゴキダス。

<https://shiruto.jp/>



『shiRUto』は、立命館大学の教育・研究から得られる知の数々が私たちや社会とどう関わっているのかを、ビジネス、テクノロジー、グローバル、ライフ、スポーツ、カルチャーの6つの視点で取り上げる大学発オウンドメディアです。世界を、日々の生活をよりよくする、明日のビジネスを考える、新たなイノベーションを起こす、そんなきっかけを生み出すメディアを目指しています。



shiRUto「共働きの2人が目指すべき本当の『ワークライフバランス』とは」
<https://shiruto.jp/life/1588/>（公開日：2019年9月27日）を一部改訂し、掲載



昨年（2019年）10月から幼児教育・保育の無償化が実施された。幼稚園や保育所などを利用するすべての3～5歳児で利用料が無償になるため、小さな子どものいる家庭の多くでは家計が助けられることは間違いないだろう。

しかし一方では、「保育士の待遇を改善して人材の確保から着手すべきだ」「無償化が保育需要を掘り起こすため、待機児童問題が悪化する」という反対意見も根強く、子育て世帯の動きやすさにどれほど結びつくかは疑問も残る。

また、高齢化率が世界で最も高い日本では、年金や医療費など社会保障支出が増え続けることは必然。教育や家庭のための公的支出が将来大きく拡大する可能性は、残念ながら低い。

家庭をめぐるシビアな状況の中、共働きの2人が「ワークライフバランス」を実現するには、どんなポイントに気をつけるべきだろうか？『結婚と家族のこれから 共働き社会の限界』（光文社新書）、『仕事と家族 日本はなぜ働きづらく、産みにくいのか』（中公新書）などで家族や労働について論じている筒井淳也教授（立命館大学 産業社会学部）に話をうかがった。

家事・育児分担で気をつけるべきポイントは？

労働には、対価としてお金が支払われる「有償労働（paid work）」と、家事・育児などの「無償労働（unpaid work）」がある。男女の性別分業がもっとも広まっていた1970～80年代には、男性が有償労働で家計を支え、女性が無償労働を行って家庭を運営するのが、よく見受けられる家庭の姿だった。

しかし現代では、フルタイムで働く女性が増え、女性の有償労働時間は著しく増えた。一方で男性の有償労働時間はやや減少しているという。では無償労働の時間はどう変化したのだろうか？家庭の外で働くようになった女性では減り、それを補うべく男性では増えたと考えるのが自然だが、現実はそうではなかった。

「女性の無償労働時間は、70～80年代と比べてたしかにかな

り短くなりましたが、不思議なことに男性の無償労働時間はほとんど変わりませんでした。つまり、家庭全体における無償労働時間は大きく減りましたが、それは主に家事の自動化や外食・中食の普及などに起因し、男性による貢献はほとんどなかったのです。

最近の男性は家事・育児に協力的なイメージもありますが、以前に統計データを取ったところ、男性の家事時間は10年間で1日10分弱しか増えていないという結果が出ました」（筒井教授、以下同）

男性は有償労働時間が減ったため家事や育児に参加する余地も増えたはずだが、そうはならなかったというのが実情ということだ。

「男女の無償労働をもっと均等にすることが、余裕を持って家庭生活を運営するための第一歩といえます」

しかし、家事・育児分担にはトラブルが生まれやすい。その一つが要求水準の不一致だ。料理や掃除などの家事に対して、一般的に女性の方が高いクオリティを求めるケースが多い。特に、専業主婦として家事をこなす母親を見て育った女性の中には、たとえフルタイムで働いていても母親と同じ水準の家事をこなそうとする人もいます。必然的に男性に対する要求も高くなってしまい、家事に不慣れだったり、そもそも要求水準が高くない相手との対立につながるケースもある。

「会社の仕事とは違って、家庭の仕事の水準は夫婦・カップルの2人で決めざるを得ず、着着が付きづらい。お互いに『自分の方が正しい』と思いがちです」

日本の家事水準は海外に比べて高く、いわば「手を抜く」余地は大きいという。そもそも、フルタイムで共働きの2人が、性別分業型の家庭と同じ家事クオリティを保つのは不可能だ。

「会社の仕事と同じで、不慣れな人が初めて家事・育児に参加するときは教育などの『初期投資』は必須です。見守る側も最初は寛容な気持ちで協力する方がいいでしょう」



家族社会学を専門とする立命館大学 産業社会学部の筒井淳也教授



「ワークライフバランス」の「ライフ」とは？ 家の仕事もしない自由な時間を確保すべし

フルタイムで働きながら子どもを育てる夫婦・カップルにとって、仕事と家庭の両立は最重要課題だろう。しかし筒井教授は、「仕事と家庭の両立を『ワークライフバランス』と呼び、最終目標にするのは危うい」と話す。

「ワークライフバランスという言葉ではたいてい、『ワーク=有償労働』『ライフ=家事・育児を含む家庭生活』とイメージされがちです。しかしこの考え方では、生活のほとんどが有償または無償の労働に占められ、くつろぐ時間がなくなってしまいかねません。大切なのは、仕事も家事・育児も行わない自由な時間を確保すること。この時間こそワークライフバランスの『ライフ』と呼ぶべきです。

家族といくとくつろげない人もいるはずで、「家庭の時間=ライフ」と機械的に考えると、『家で過ごす時間も多いのになぜか気が休まらない』と知らず知らず気持の余裕をなくしてしまう危うさがあります」

仕事や家事・育児をすべてこなすのは神経を使う難題だが、それが達成されればすなわち素晴らしい生活といえるわけではない。過ごし方を自分だけで決められる自由な時間、すなわち本当の「ライフ」は男性にも女性にも等しく必要だ。

「家庭」の存在を前提にしているのか

ここまでは家庭の存在を前提にした話だったが、最後に筒井教授は「ともに住む家族のいない人がいることも忘れるべきではない」と注意を促す。特に東日本大震災以降、家族の絆や家庭の良さがことさらに強調されるようになった。企業の広告でも、家族がいることによる料金メリットなどをうたうものが多い。

「しかし、世の中のすべての人が一緒に住む家族がいるわけではありません。現代の日本では、50歳時の男性の4人に1人、女性の7人に1人が未婚という時代。大半は結婚『したくない』というよりも『したいけれどできない』という人です。それにもかかわらず一緒に住む家族のいる人だけを制度的に優遇しては不公平感が募ります。同居する家族のいない人を制度的にサポートする視点も意識すべきです」

自分とは異なる立場や環境に置かれている他者を想像することが、社会で強く求められていると筒井教授は語る。そしてこの視点は、家族やパートナーを気遣うためにも欠かせないはずだ。真のワークライフバランスを実現するために必要な観点は、社会制度と家庭運営のどちらを考えるうえでも、共通するものかもしれない。



SPORTS スポーツ

問い合わせ先：スポーツ強化センター
077-561-3977
※掲載の所属・回生などは開催時点のもの

アメリカンフットボール部

惜しくも甲子園ボウル出場を逃す

12月1日、「全日本大学アメリカンフットボール選手権・西日本代表校決定戦(WESTERN JAPAN BOWL)」が万博記念競技場(大阪府)で開催され、アメリカンフットボール部PANTHERSは関西学院大学FIGHTERSに10対21で敗れ、惜しくも甲子園ボウル出場を逃しました。PANTHERSは劣勢の状況の中、攻守で奮闘しましたが、反撃及ばず勝利を逃しました。



荒木優也選手(産社4) 写真:アフロスポーツ

女子陸上競技部

「2019全日本大学女子選抜駅伝競走(富士山女子駅伝)」4位

12月30日、静岡県の富士山麓で行われた「2019全日本大学女子選抜駅伝競走(富士山女子駅伝)」で、女子陸上競技部は4位でした。富士山本宮浅間大社前をスタートし、富士総合運動公園陸上競技場を目指す7区間43.4km。冷たい雨が降りしきる難しいコンディションの中、日本一奪還をかけてレースに挑みました。1区で8位と出遅れたものの、2区の佐藤成葉選手(経済4)が区間2位の好走で順位を2位に押し上げます。その後、3区の御崎舞選手(経済2)が区間新記録の好走でトップとの差を詰めると、4区の松本美咲選手(経済3)の好走でトップ

にたちます。しかし、5区で名城大学などの追いつけを受け順位を3位に落とし、6区でも4位に順位を下げました。7区では懸命の粘りを見せるも、順位を上げることができず、4位でゴールしました。



アンカーの眞部亜樹選手(スポ健4) 写真:月刊陸上競技

サッカー部

小松拓幹選手がカマタマーレ讃岐に入団内定

1月10日、小松拓幹選手(産社4)が、Jリーグ・カマタマーレ讃岐に入団内定しました。小松選手は、阪南大学高等学校からサッカー部へ入部し、長身を武器に空中戦やカバーリングを得意としています。大学でのプレーが最後となる2019シーズンは、守備の要としてリーグ戦や天皇杯に出場し、サッカー部の中心選手として活躍しました。



小松拓幹選手 写真:立命スポーツ編集局

外山佳大選手がザスパクサツ群馬に入団内定

1月10日、外山佳大選手(産社4)が、Jリーグ・ザスパクサツ群馬に入団内定しました。外山選手は、京都サンガF.C.U-18か

らサッカー部へ入部。足元の技術が高く、ビルドアップとロングフィードが強み。気迫溢れるプレーでチームを鼓舞する選手です。



外山佳大選手

CULTURE/ART 文化・芸術

問い合わせ先：学生オフィス
075-465-8167
※掲載の所属・回生などは開催時点のもの

応援団チアリーダー部

「第31回全日本学生選手権大会」第3位

12月14・15日、高崎アリーナ(群馬県)にて「第31回全日本学生選手権大会」が行われ、応援団チアリーダー部が競技部門で第3位となりました。今大会は新体制で挑む初めての大会で、「ノーミス演技」を一つの目標としてチャレンジしました。チーム一丸となって見事に目標を達成し、10年ぶりとなる表彰台上りました。



かるた会

「第64回西日本新聞社杯小倉百人一首団体対抗かるた選手権大会」優勝

12月8日、櫛田神社(福岡県)で行われた「第64回西日本新聞社杯小倉百人一首団体対抗かるた選手権大会」において、かるた会が二つのクラスで優勝、準優勝を飾りました。今大会は階級順にA級～D級のクラス分けとなり、A級の部では競技かるた名人率いる京都大学を倒し、2年ぶりの優勝、D級では準優勝の成績を収めました。



囲碁研究部

「第63回全日本大学囲碁選手権」で2年ぶり優勝

12月23～26日、日本棋院(東京都)で「第63回全日本大学囲碁選手権」が行われ、囲碁研究部が最終戦で早稲田大学との全勝対決を3勝2敗で制し、2年ぶり8回目の優勝を遂げました。本大会は、地区予選を勝ち抜いた全国8大学が出場し、5人編成のチームで戦いました。





シンポジウム「理系女性研究者の裾野拡大と風土づくり」開催

11月21日、大阪いばらきキャンパスで、2019年度全国ダイバーシティネットワーク組織近畿ブロックシンポジウム「理系女性研究者の裾野拡大と風土づくり」を開催しました。性別や年齢、国籍などあらゆる属性に関係なく、誰もが自らの力を最大限発揮できる環境づくりの推進を目的として、大学関係者ら約120名が参加。シンポジウムでは、女性の活躍に向けた施策や論点をテーマとした基調講演の他、理系女性研究者の育成に向けた取り組みなどが紹介されました。



「第11回立命館地球環境委員会シンポジウム」開催

12月3日、立命館地球環境委員会と立命館サステナビリティ学研究センターの共催で、びわこ・くさつキャンパスにて「第11回立命館地球環境委員会シンポジウムーSociety5.0時代におけるサステナブル社会ー」を開催しました。当シンポジウムは、学生構成員の環境教育・啓発や、本学の取り組みの発信の機会として毎年開催されています。今回は「Society5.0」に着目し、先進的な技術・研究事例からサステナブルな社会について考えました。



亀田誠治氏特別講義「フリーでボーダーレスなイベント『日比谷音楽祭』の作り方」開催

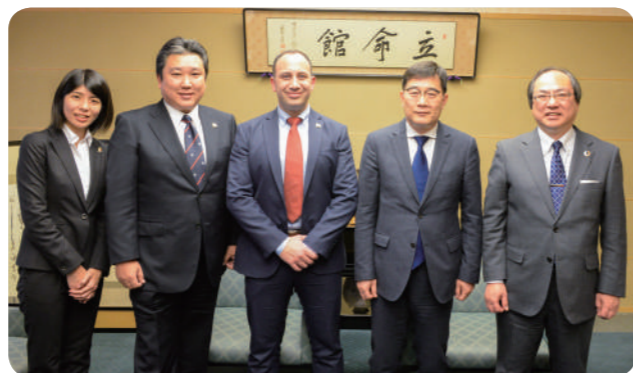
12月12日、衣笠キャンパスにて、本学客員教授で音楽評論家の反畑誠一先生が企画した、亀田誠治氏による特別講義「フリーでボーダーレスなイベント『日比谷音楽祭』の作り方」を行いました。講義では、音楽を起点に性別も国籍も世代も障害の有無も問わず、幅広い参加者が楽しめるイベントを目指すという音楽祭に対する亀田氏の考えが語られました。当日は200名を超える学生が参加し、フェスづくりのノウハウを知り、今後の音楽の未来を考えました。



亀田誠治氏

マルタ共和国 特命全権大使がご来学

12月16日、マルタ共和国のアンドレ・スピテリ特命全権大使（10院国関）が朱雀キャンパスに来学し、森島朋三理事長、仲谷善雄総長と懇談されました。スピテリ大使は、2013年から在外日本担当大使として日本とマルタの幅広い交流強化に尽力されています。懇談では、大学の国際化やマルタと京都の都市としての親和性などについて意見が交わされ、大使からは、立命館とマルタとの交流拡大への期待が寄せられました。



アンドレ・スピテリ マルタ共和国特命全権大使（中央）

Ys salon「クルマから日本酒へ 未来へつながる食のシステムデザイン」開催

12月25日、びわこ・くさつキャンパスにてYs salon「クルマから日本酒へ 未来へつながる食のシステムデザイン」を開催しました。「未来の人類社会のあり方」をテーマに、仲谷善雄総長、松原洋子副総長、学内の専門家と学生・院生・教職員が対話を通じて思想を深めるYs salon。2回目となる今回は、野中朋美・食マネジメント学部准教授をゲストに迎え、システムデザインやサービス工学の視点から持続可能性について解説していただくとともに、さまざまなつながりから生まれる気づきについて参加者と考えを深めました。



左から松原洋子副総長、野中朋美准教授、仲谷善雄総長

理工学部 長谷川知子准教授が科学・社会科学分野で世界最高峰の研究者「高被引用論文著者」に選出

理工学部の長谷川知子准教授が、クラリベイト・アナリティクスの事業部門であるWeb of Science Groupが発表した「高被引用論文著者 (Highly Cited Researchers 2019)」に選出されました。クラリベイト・アナリティクスは、特定出版年・特定分野における世界の全論文のうち、引用された回数が上位1%に入る論文を発表し、後続の研究に大きな影響を与えている研究者として紹介しています。今回は、さまざまな分野の約60カ国6,216名の研究者が選ばれました。



長谷川知子准教授

「立命館・社会起業家支援プラットフォーム RIMIX」始動

学校法人立命館は、社会課題に貢献する人材・マインド養成から起業支援までの取り組みをプラットフォームとして「見える化」し、企業との連携のもと学生・生徒・児童を支援するため、2019年9月、「立命館・社会起業家支援プラットフォーム RIMIX (Ritsumeikan Impact-Makers InterX <cross>)」をスタートしました。連携企業各社のノウハウ・資源を生かして、次代を担う学生・生徒・児童の問題意識を起点に起業を支援し、初等・中等教育段階から社会課題を解決する人材（社会起業家：Impact-Maker）の養成を目指します。



「総長PITCH THE FINAL」開催

1月10日、朱雀キャンパスにて「総長PITCH THE FINAL」を開催しました。「総長PITCH THE FINAL」は、立命館学園の生徒や学生のプロジェクトをビジネスレベルまでブラッシュアップし、総長へ提案を行うコンテストです。社会起業家養成を本格的に支援する「立命館・社会起業家支援プラットフォーム RIMIX」の一環で2019年度からスタートしました。1回目となる今回は、16チームが応募し、総長PITCH CHALLENGEとしてRIMIX連携企業であるソニー株式会社のSSAP (Sony Startup Acceleration Program) による本格的な支援を2カ月間受け、最終発表の場となる「総長PITCH THE FINAL」に挑みました。当日は、事前選考を通過した7チームが最終選考にあたるファイナルセッション、残念ながらファイナルセッションに進めなかった9チームがチャレンジセッションで、仲谷善雄総長をはじめとする審査員・観覧者に各自の思いやアイデア構想を発表しました。



総長PITCH THE FINAL 集合写真

チャレンジし続ける先に―― 立命館大学を牽引したスプリンターの“現在地”

陸上競技 山中日菜美 選手 (19歳)

2020東京オリンピックまで1年をきる中、大きな夢を胸に、新天地で奮闘する選手を取材しました。

愛 知県刈谷市に本社を構える株式会社デンソー。女子100m・200mを専門とする山中日菜美選手は、2019年4月にデンソーへ入社し、実業団選手として陸上競技を続けている。「あと少し」。学生時代、わずかの差で逃したタイトルへの思いが、競技を続けるモチベーションだと、山中選手は言う。

学生時代は、関西勢で55年ぶりとなる日本学生陸上競技対校選手権大会(以下、日本インカレ)女子総合優勝を1回生で経験し、自身も4×100mリレーの1走を務めた山中選手。その後、個人では3回生までは関西学生陸上競技対校選手権大会で入賞こそあったが、日本インカレでは入賞にあと一步届かなかった。それでもチャレンジし続けた。そして4回生で迎えた最後の日本インカレ。100mで11秒88の2位、200mで24秒69の3位と個人で2種目入賞を果たすと、4×100mリレーでも2位、最後は4×400mリレーの3走を走って2位。合計4つのメダルを手にした。「本当に楽しくて、一瞬でした。このチームだから頑張ろう、自分がボロボロになってもチームのみんなが笑顔になれる走りをしたい、そんな感情がモチベーションになっていました」と話す。山中選手にとって、学生生活最後の日本インカレで日本一には届かなかったが、陸上競技生活の中で間違いなくターニングポイントになった。

2019年1月からは、2020東京オリンピック出場権獲得を最



日本インカレ女子4×100mリレーの様子(写真:月刊陸上競技)

大目標とする女子リレーの特別強化プロジェクトで日本代表選手に選出され、「第23回アジア陸上競技選手権大会」「IAAF世界リレー2019横浜大会」を日本代表の一員として過ごした。「すごくいい経験になりました。一方で、試合で走ることができず、何しに來てるんだろうという気持ちと、自分がここで選ばれても自信を持って走ることができないという思いもあったので、もどかしかったです」と当時を振り返る。しかし日本代表での経験が“自信”を持ってスタートラインに立つ大切さ、そのために努力を積み重ね続けるといった前向きな姿勢につながったと言う。

迎えた実業団1年目のシーズンは、4月の「第53回織田幹雄記念国際陸上競技大会」からスタートし、さまざまな記録会にも出場。「第67回全日本実業団対抗陸上競技選手権大会」では女子100mで6位入賞した。さらに、「第74回国民体育大会(いきいき茨城ゆめ国体2019)」では、滋賀県代表として自身初の陸上競技の主将に。「高校1年生から国民体育大会に出場し、いつも先輩方に甘えながらチームの一員として競技に参加していました。ストレスはまったくなかったですね。主将という立場は競技人生で初めての経験だったので、どのようにチームを引っ張っていくのか悩みましたが、これまでの先輩方の姿勢を参考にして、自分から積極的に笑顔で声をかけながらチームの雰囲気や大事にしました」と山中選手。生まれ育った滋賀県について尋ねると「愛知県に來て、改めて滋賀県(地元)がめっちゃ好きだと思いました。私にとって滋賀県、そして立命館大学はまさにホームで居心地がいいんです。地元で応援してくれている方々に良い姿を見せられるように、これからも真剣に競技に向き合っていきたいですね」と話してくれた。

2020年のシーズンに向けては、陸上競技生活10年の中で一番しっくりきているという。「実業団選手として、責任感や結果にこだわる部分を今まで以上に大事にしています。何より、今シーズンは勝ちたいという思いしかなくて」と身体的にも精神的にも良いコンディションだと明かす。実業団2年目のシーズンの抱負を尋ねると、「まずは自己ベストを大幅に更新すること。オリンピック代表選考にも絡むので、100mは11秒6、5台を目指したいです。自分を見つめ直して、ベストな状態にもっていきたい。その先にオリンピックを見たいです。立命館大学を牽引したスプリンターが、スイッチを入れる。

カヌーが楽しくて仕方がない

カヌー 棚田大志 選手 (スポ健4)

2019カヌースプリント日本代表候補選手で、この春卒業予定の棚田大志選手(スポ健4)。大学生生活を「あつという間で、とても充実した4年間」と語り、2020東京オリンピック代表入りへ貪欲に進化しようとする22歳の決意を伺いました。

「大 学生生活、やれることは全部やってきました」。こちらの問いに間髪を入れずに笑顔で答えてくれた。「スポーツ健康科学部での学びは、競技と直結することも多く、毎日が楽しかったですね」。

カヌーを始めたのは、高校生の頃。自然が好きで、楽しそうだと思って始めたカヌーは「やってみたら、とてもしんどいスポーツでした」と振り返る。最初は水に落ちてばかりで全く乗れなかったが、その悔しさからカヌーにのめり込んでいったという。高校3年生の時には、ジュニア日本代表に選出されるなど、めきめきと実力をつけていった。

立命館大学入学後は、さらに頭角を現し、U23日本代表にも選出。「練習の中で、自分が何をやらなければいけないか、何が足りないかを考えながら取り組めたことは大きかった」と立命館大学カヌー部での日々を振り返る。ナショナルチームの練習の時にも立命館大学で培った「考える力」や経験が生きていて、ほかの代表選手と比べても、練習の質・効果を感じる機会は多い、と話す。

大学卒業後は、2020東京オリンピック出場を目標に、日本だけでなく世界でも活躍し続けたいと力強く語ってくれた。さらにその後の人生について「カヌーをもっと広めるためにクラブチームを設立したいと思っています。ずっと先の目標ですが、知識や経験を積みながら、競技面でも成績を残したい。必ずプラスになると信じています」と意気込む。新たな環境で、2020東京オリンピックへ向けた歩みを進める。



世界と戦えるアスリートを目指したい

ボート 鈴木侘奈 選手 (経済1)

ボート競技U23日本代表候補選手である鈴木侘奈選手(経済1)。大学入学後、チームメイトとともに試合に勝つ喜びを味わい、より一層ボートの魅力を感じている鈴木選手に、今シーズンの振り返りとこれからの目標について伺いました。

韓 国で行われた「2019アジアボート選手権」で銀メダルを獲得した鈴木選手。「世界レベルを肌で感じ、世界と戦える自信もつきました」と大学1年目のシーズンを充実した顔で振り返る。

山形県教育委員会が主催する山形県スポーツタレント発掘事業「YAMAGATAドリームキッズ」に中学3年生の時に応募したことが鈴木選手とボートとの出会い。体力測定の数値を見て、公益社団法人日本ボート協会から合宿に参加するよう声をかけてもらい、初めてボートに触れた。本格的にボート競技をスタートさせたのは高校1年生だという。立命館大学では、高野晃帆選手(スポ健4)とペアを組むことが多く、日々学ぶことがたくさん。「練習の時から先輩後輩関係なく、自分の意見をしっかりと伝えることは大切にしています。晃帆さんのアドバイスは適切でわかりやすい。自分もチームメイトへアドバイスできるように、クルーのことをもっと勉強したいです」。

現在、U23日本代表候補選手として代表選考真っ直中。「日本代表選手として、ヨーロッパやアメリカの強豪選手と競い合いたい」と代表入りに向けてトレーニングにも熱が入る。「国内大会で優勝することはもちろん、世界で戦える選手になることが目標です。パリ五輪も見据えて、一歩ずつ成長したいです」。大学2年目のシーズン、鈴木選手の飛躍に期待したい。



※掲載の所属・回生などは2020年2月時点のもの

就任(内定含む)

片山芳宏氏 (80 経済)
モルドバ大使

山口信彦氏 (83 経済)
大阪府副知事

味澤将宏氏 (94 経営)
フェイスブック ジャパン株式会社代表取締役

当選

門川大作氏 (74 法)
京都市長選挙

訃報

芝田徳造氏 (53 法)
立命館大学名誉教授 (産業社会学部)

佐藤研一郎氏 (54 理工)
立命館館友、立命館大学校友会名誉校友

高木伸夫氏 (62 院法)
元大阪校友会副会長、元立命館法曹会会長

西村隆氏 (63 法)
立命館大学校友会顧問

猪谷寛氏
立命館大学名誉教授 (経済学部)

BOOKS (寄贈図書)

校友会へご寄贈くださいました本の中から一部をご紹介します。

◆石井龍生 (本名: 石井達夫) 氏 (61 法) 著
『陽炎』
八千代印刷

◆石津一成 (本名: 飯田一雄) 氏 (62 理工) 著
『母に牽かれた住まいの遍歴』
鳥影社 1,600円+税
『リビア、はるかなりー妻への便り・58通』
鳥影社 1,500円+税
『生涯収入・五億円！
あるサラリーマン、五十七年間の軌跡』
鳥影社 1,500円+税

◆川俣水雪氏 (90 法) 著
『歌集 シアंकレール今はなく』
静人舎 1,800円+税

校友会報「りつめい」読者アンケートにご協力をお願いします！

校友会報「りつめい」をご愛読いただきまして、ありがとうございます。校友会事務局では、より充実した会報を皆さまにお届けするため、読者アンケートを実施しています。いただいたご意見を企画に生かしていきたいと考えておりますので、皆さまのご協力をお願いいたします。ご協力いただいた方の中から抽選で、プレゼントをお贈りいたします。なお、当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

アンケート回答方法

- ・携帯電話、スマートフォンで簡単アクセス！
- または、
- ・校友会ホームページ トップのバナーをクリックしてアクセス！



抽選で立命館オリジナル
高機能マウスをお贈りします



かつて京都御苑清和院御門前の広小路学舎の法学部に学んだ私は、北にある近くの自宅から梨木通を徒歩通学していました。「御苑に近き学び舎に」と校歌にある私の母校(日本人初のノーベル賞受賞者湯川秀樹先生も卒業生です)、京都御苑石薬師御門前の京都市立京極小学校は昨冬、創立150周年を迎えました。東京遷都に直面し、全国初の学区制小学校を創設したのは明治の京町衆の心意気の賜物です。そして、今年がわが立命館大学法学部が創立120周年、法学部同窓会が20周年を迎えます。先輩たちの母校への熱き心に思いをはせる1年です。(宮西徳明)

昨年12月、第162回芥川賞・直木賞の候補作が発表になった。芥川賞には、立命館大学大学院先端総合学術研究科准教授・千葉雅也先生の初小説「デッドライン」がノミネートされている。先生は、野間文芸新人賞の受賞歴もある気鋭の哲学者。表象文化論研究のためか、ギャル男ファッションも時折、身にまとうておられる。失礼ながらユニークでセクシーな方。かの九鬼周造を敬愛されていると聞き、私のなかでもますます目が離せない存在になっている。ところで、この編集後記の「デッドライン」は1月15日の選考前。なので、芥川賞の行方を気にしながら、書いている。気になる作家の本は、初小説からそろえることにしている私。結果はどうあれ、小説第2弾が今から待ち遠しい。(山岡祐子)

編集室から

SDGsに関心を持ち始めていた頃、経済学部同窓会からSDGsをテーマにしたツアー企画の案内が届き、参加させてもらった。当日は初対面の方々ばかりであったが、「立命館」という土台の下、直ぐ打ち解け、大先輩から後輩まで幅広い年代の方々と交流させてもらった。車中ではSDGsの講義があり、貧困、気候変動など地球規模の問題を解決していくために一人一人が問題を認識し、実行すること、また教育機関の取り組みの重要性を学ぶ有意義な講義となった。隣席の方と親しくなったが、若いながら起業して頑張っている話を聞き、思案しながらも前向きに取り組む姿勢に共感、私ももっと頑張らねば!と、明日への活力をいただけた。校友との交流は大変貴重で、人生の糧になる。これからも積極的に深めていきたいと思う。(森)

令和二年の春を迎えようとしています。日本の大雨台風被害に心を痛めた秋が過ぎ、アマゾンの、そしてオーストラリアの災害に胸を痛めた冬が過ぎました。いよいよ日本でオリンピックのある今年。オリンピックが平和の祭典であったことに心をはせ、祈りの気持ちを忘れずに、日々感謝して生きていこうと思います。四児の母となった今、立命館で活躍する学生の皆さんとは、私よりも子どもたちの方が歳が近くなってしまいました。世代のバトンをどう渡せるのか、大切な問いだと感じます。立命館という共通の旗に集う皆さまの日々が、ますます豊かでありますように。(安井亜希)

BOOKS FOR BOOKS

～立命館の本活～



2013年4月から2019年12月末までに**6,835名**の方々から**306,494冊**の本をお送りいただきました。誠にありがとうございます。引き続き、校友のみなさまのご協力をよろしくお願い申し上げます。

☺ どのような仕組みですか？



☺ 以下の本は取り扱えませんのでご了承ください。

- ISBNのない本
- 百科事典 ● コンビニコミック ● 個人出版の本
- マンガ雑誌 ● 一般雑誌
- 同一タイトル11点以上 ● シングル CD
- 投票券等特典付き CD

☺ 手続きの方法は？

- ① 書籍を段ボール箱に入れる。
 - ② 電話(バリューブックス ☎0120-826-292)かWEBで集荷を依頼する。
- ※お電話の場合は右の「申込書」をキリトリ線に沿って切り取り、必要事項をご記入のうえ段ボール箱に入れてください。
※5冊以上であれば送料は無料です。
※1回の申込箱数は、3箱までとさせていただきます。

詳しくは **WEB** をご覧ください。

お問合せ先 学校法人立命館 総務部 寄付事務局 TEL: 075-813-8110 (平日 9:30～17:00)

お申込みに関してのご注意

買取額は市場価格等を考慮して(株)バリューブックスにて査定されます。買取額は需要と供給によって決まるため、ご自身が大切にされている本であっても、残念ながら低額となることや値段がつかない場合がございます。お申込みに際しては、その点をご理解くださいますようお願い申し上げます。

立命館大学国際平和ミュージアム企画展のご案内

2020年度春季特別展	第130回ミニ企画展示	第131回ミニ企画展示
<h3>放射線像/Autoradiograph</h3> <p>—放射能を可視化する—</p> <p>東日本大震災に起因する福島第一原子力発電所事故で、大量の放射性物質が放出されました。映像作家・加賀谷雅道氏は、汚染の実態をオートラジオグラフィの手法によって可視化し伝える作品を発表しています。本展では、福島で採取した生物や日用品などの中に存在する放射性物質を撮影した作品約40点などを展示します。</p> <p>※KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭2020アソシエイテッド・プログラムです ※KYOTOGRAPHIE 共通バスポート提示で本展のみ無料(1回限り)</p>	<h3>世界一貧しい元大統領から学ぶ“本当の豊かさ”</h3> <p>主催：岩本心(立命館大学文学部)</p> <p>「世界一貧しい大統領」として知られる、ウルグアイ元大統領ホセ・ムヒカ氏。“本当の幸せ”とは何か、ムヒカ氏の言葉から考えます。</p> <p>「ムヒカ氏と私」(2019年7月 岩本心撮影)</p>	<h3>US</h3> <p>～学生が見たロヒンギャ～</p> <p>主催：鶴 颯人(立命館大学法学部)</p> <p>「今世紀最大の人權侵害」ともいわれるロヒンギャ問題。難民キャンプに暮らすロヒンギャなど、2人の学生記者が写真と文章で伝えます。</p> <p>「処刑場からの生還」(2019年8月 鶴 颯人撮影)</p>

会期	開館時間
2020年度春季特別展	午前9時30分～午後4時30分(入館は午後4時まで)
第130回ミニ企画展示	休館日 日曜日・4/30(木)・5/6(水) ※5/3(日)は開館
第131回ミニ企画展示	観覧料 一般400円(350円)／中・高生300円(250円)／小学生200円(150円) ()は20名以上の団体料金／障害者手帳等をお持ちの方(介助者1名を含む)は無料 5/16(土)は無料公開
	※常設展示(地階・2階)は、左記展示期間以外でも見学することができます。校友の皆さまは右下の三角券を受付に提示、または校友申請手続きで無料となります。

立命館大学 国際平和ミュージアム
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 TEL.075-465-8151 FAX.075-465-7899 URL▶https://www.ritsumeikan-wp-museum.jp/

